

④5 山形県総合文化芸術館整備事業

受賞機関 山形県 県土整備部

キーワード 豊かな音響効果、山形発信、防災拠点

全建賞審査委員会の評価ポイント

文化・芸術活動の拠点となる山形県総合文化芸術館の整備。防災拠点としての機能も兼ね備えつつ、様々なジャンルに対応できる音響性能を確保したホールを整備する中で、県産材料・県産技術を積極的かつ効果的に活用し、山形県の魅力を発信する施設整備を行っている点が評価された。

1. はじめに

これまで、約50年の長きにわたり県民の文化活動の中心施設であった旧県民会館は、老朽化、設備の陳腐化、ホール座席数の少なさなど多くの問題を抱えており、これに代わる新たな「文化・芸術活動の拠点」をJR山形駅西口に整備、2020年に開館した。

2. 事業の概要

○「文化・芸術活動の拠点」としての施設

大ホールは全国規模の公演を誘致・鑑賞できるよう2,001席とし、他に大小の練習室6室を設けることで、音楽や演劇など多目的な用途に対応した。



施設正面全景

○「強み・特色・魅力」を発信する施設

内部の仕上げについて、県産木材を積極的に採用した。また、ホールの椅子は県産木材及び織物を材料に、県内企業の木材加工技術を活用して製作した。更には、エントランスロビーに県産技術の山形組子、山形緞通、有機ELを採用するなど、施設の各所に山形が誇る県産技術や職人の高い技術力を取り入れた。

JR山形駅に隣接する立地の良さを活かし、山形県の食文化の発信や、県内の農水産物・物産品を扱うアンテナショップとして、山形魅力発信モールを併設した。

○「防災拠点」としての施設

災害時対応として防災備蓄倉庫、太陽光発電設備、非常用発電機、耐震性貯水槽、マンホールトイレなどを整備した。

3. 事業の成果

○豊かな音響空間の実現

大ホールは、設計時からコンピューターによる音響シミュレーションを繰り返すことで、使用する材料や音響底、天井や側壁の形状を検討した結果、音楽・演劇・舞踊など多様なジャンルにおいても豊かで聴きやすい音を実現することができた。



東北屈指の収容席数と優れた音響効果を併せ持つ大ホール

○山形発信

来館者が県産の材料や技術を身近に感じられる施設であることと、山形魅力発信モールを併設したことの相乗効果により、県内外に幅広く県の魅力を強く発信する効果を期待している。

○防災拠点

太陽光発電と非常用発電機の併用やマンホールトイレの整備などにより、災害時には1,000人の帰宅困難者を3日間受入れることを可能とした。

4. おわりに

本施設が、「多様な交流」「新たな感動」「日々の賑わい」を生み出す新しい山形の複合文化施設として、広く県内外の方々から末永く愛されることを期待している。

賛助会員 (株)安藤・間、山形建設(株)、(株)高木、東北電化工業(株)、黒澤建設工業(株)、弘栄設備工業(株)、(株)山形企業